



# NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Municipal Universities Press (OMUP)

## 目 次

・第8回NPO法人大阪公立大学共同出版会総会報告	小股 憲明	1
・新理事長のご挨拶	足立 泰二	2
・自著を語る (8) テレビの未来と可能性 一関西からの発言一	辻 一郎	3
・書評掲載記事		4
・新刊案内		5
・大阪公立大学共同出版会事務局より		6
・新顔紹介		6
・編集後記		6

## 第8回NPO法人大阪公立大学共同出版会総会報告

## 小股 憲明

去る6月22日(土) 午前11時より12時30分まで大阪府立大学A14号棟2階会議室において、第8回NPO法人大阪公立大学共同出版会(OMUP)の総会が開催された。総会成立の確認後、三田朝義理事長を議長に選出し、さらに足立泰二常務理事と小股憲明常務理事を議事録署名人に指名して、議事に入った。

第1号議案「平成24年度事業報告」では、同年度に10点の出版を行ったこと、学術研究の成果を一般市民にもわかりやすく提供する「OMUPブックレットシリーズ」の刊行に力を入れたこと、NPO法人みやざき自然塾の出版事業展開に協力したことなどが報告され、満場一致で承認された。

第2号議案「平成24年度事業決算」は、表に示す通りである。監事より「適法かつ正確である」と署名捺印をいただき、満場一致で承認された。

第3号議案「役員等の選任」については以下の案が、満場一致で承認された。現在理事長である三田朝義氏は理事(顧問)に、総括常務理事の足立泰二氏は理事長に、財務総括常務理事の小股憲明氏は副理事長に、常務理事である八木孝司氏は副理事長にそれぞれ選任する。新しい常務理事に、上田純一氏(総括)と中村治氏(財務総括)、新しい幹事に長尾

謙吉氏に、それぞれ就任していただく。また、理事であった湯浅勲氏、石井実氏、北村肇氏、幹事であった田畠理一氏は退任された。

第4号議案「業務契約」については、電話秘書業務の委託契約、杉本公認会計士事務所との顧問契約、ホームページの維持・管理契約、事務局業務の契約、責任編集業務の委託契約のそれぞれについて、満場一致で承認された。

第5号議案「平成25年度事業計画」については、受託出版事業、出版物の受託販売事業、OMUPブックフェアの開催、出版目録の作成と配布、ニュースレターの発行(年間2回)、ホームページの運営、OMUPサロンの開催など、おおむね前年度と同様の事業を展開することとし、満場一致で承認された。

## H24年度決算書及びH25年度予算書

(単位:円)

科 目	H24決算額	H25予算額
事業収入		
書籍売上	1,937,687	2,500,000
出版収入	著者負担 大学負担・出版助成等	6,073,135 1,733,457
寄付金収入	241,300	240,000
入会金収入	80,000	100,000
その他の収入		
受取利息	123	0
雑収入	1,275	10,000
当期収入合計	10,066,977	13,250,000
売上原価		
期首商品棚卸	1,047,779	2,678,275
製作費	6,460,815	6,500,000
運送・発送費	74,925	75,000
編集デザイン料	974,315	1,000,000
期末商品棚卸	-2,678,275	-2,000,000
管理費		
雑給	2,783,100	2,780,000
福利厚生費	7,811	7,000
業務委託費	652,847	660,000
旅費交通費	255,759	300,000
通信費	80,166	85,000
交際費	11,368	50,000
会議費	16,059	20,000
水道光熱費	17,940	18,000
著者精算	371,339	400,000
消耗品費	47,626	50,000
事務用品費	281,541	250,000
広告宣伝	124,000	120,000
支払手数料	32,435	33,000
新聞図書費	5,610	5,000
諸会費	0	0
法人税等	70,023	75,000
当期支出合計	10,637,183	13,106,275
当期収支差額	-570,206	143,725
前期繰越収支差額	3,894,294	3,324,088
次期繰越収支差額	3,324,088	3,467,813

第6号議案「平成25年度事業予算」については、表に示す通り、前年度を上回る予算規模を見込んで提案され、満場一致で承認された。

以上すべての議案が満場一致で承認され、議長の三田朝義理事長が閉会を宣言して終了した。

## H25スタッフ一覧

### 1. 理事

足立 泰二	理事長
小股 憲明	副理事長
八木 孝司	副理事長
上田 純一	常務理事（総括）
中村 治	常務理事（財務総括）
金井 一弘	常務理事（編集担当）
中井 孝章	常務理事（編集・企画）
平澤 栄次	常務理事（編集・企画）

内藤 裕義	常務理事（編集・企画）
三田 朝義	理事（顧問）
難波 利幸	理事
圓藤 吟史	理事
高辻 功一	理事
沼田 英治	理事

### 2. 監事

山本 浩二
長尾 謙吉

### 3. 事務

児玉 優子
安田 尚子

### 4. 編集

森ノ木徳信
川上 直子
中村 奈々

## 新理事長のご挨拶



先般の総会で新理事長に就任しました足立泰二です。任意団体として発足したときの初代桑原孝雄、NPO法人化による発展期の二代三田朝義両理事長に次いで、第三代目を務めることになりました。従前通り、何卒よろしくご愛顧のほど、お願い申し上げます。

申すまでもなく、大学にあっては、①学術的研究成果を公表し、結果として個々人の②知識体系を整え、③啓蒙と教養に寄与することは当然の要諦であります。大阪公立大学共同出版会はそのような状況の中で、新千年紀（ミレニアム）とともに発足しました。幸い、発足当時は府立系大学4ユニットと市立大学を構成する教員会員100人有余の先生方の他、志を同じくする方々に支えられ、全国の大学出版会でもユ

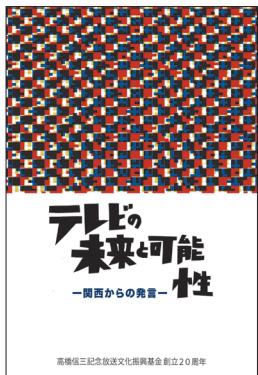
ニークな存在としてその後会員数もほぼ倍増し、順調な発展を遂げてきました。出版件数も年毎に増加傾向にあり、総計100点の新刊書の達成は遂げております。構成大学への寄与も深まり、大学からの出版助成も促進傾向にあると言ってよいでしょう。もちろん、新しいうねりとしての電子書籍化や書籍販売システムの急展開するなかで、つねに先進的対応が取れて来たとは言えません。しかし、大学出版会として、外国の大学出版会との協働や、外国著名出版社との著作権共有契約を通じて世界に広く開かれた出版社としての地歩を築いてきた実績をもっており、大学図書館とのリポジトリーキャンパスを結ぶなど、大学教員の研究成果が広く流布できるよう貢献努力した成果が実現化しています。

さて、いよいよ大阪市立大学と大阪府立大学との機能統合が目前に迫ってきております。大阪南部にあって、世界に誇れる大学が生まれるでしょう。ここで大阪公立大学共同出版会は学術出版の原点に還って、大学を構成する豊富な人材を掘り起こし、大学の中核である学術情報の発信元としての機能を、今一步前進したいものです。新たなOMUP新機軸に広く皆様方のご意見を反映すべく努力することをお誓い申し上げ、新任のご挨拶と致します。

## 自著を語る（8）

### テレビの未来と可能性 一関西からの発言一

辻 一郎、音 好宏 監修



公益信託高橋信三記念放送文化振興基金20周年記念事業事務局 編

テレビの「今」を俯瞰し、「未来と可能性」を探る。識者・メディア研究者・番組制作者67人からの発言。

ISBN978-4-907209-00-1 C0004  
A5判、上製本、310頁  
定価：本体2,400円+税

テレビを論じた本はたくさんある。ジャーナリズムとしてのテレビを扱った本、娯楽メディアとしてのテレビを語った本、その内容は様々だが、その大方は「いまのテレビはダメだ」と決めつけている点で共通している。

だがこの本はそれとは違い、批判もするが、同時にいまのテレビの立ち位置をキチンと見詰める姿勢をとり、現状をしかと分析した上で、これから可能性を論じている。

本は4本の柱で構成されている。

第1部は、テレビのあり方を関西で論じるシンポジウムだ。在阪局の現役4名に関西大学の黒田勇副学長、ニコニコ動画の杉本誠司社長を交えた6名が、いまの思いを縦横に論じている。例えば朝日放送「探偵！ナイトスクープ」プロデューサーの松本修氏は、サービス精神旺盛な「大阪のおばちゃん」の魅力と、それをとりこむ番組づくりの楽しさを語り、毎日放送の「ちちんぷいぷい」の石田英司氏は、「いい番組かどうかの規範は、文化になっているかどうか」であり、「哲学をもっているかどうか」だと指摘する。また関西テレビの宣伝部長老邑敬子氏は、デジタルデバイスとの本格的なつきあいを前に「慌てながらもワクワクしている」テレビ局の現状を語り、読売テレビアナウンサーの脇浜紀子氏は、「これは可笑しいぞ」と感じることが多い制作現場での出来ごとを、ひとつひとつとりあげて問題提起を行っている。

これをさばいているのは、上智大学の音好宏教授。議論の盛り上がりとともに、テレビがいまかかえている問題点や探るべき方向が次第に浮かび上がってきて興味深い。

第2部は、「放送の現状と未来」をテーマに、メディア研究者や番組の制作者など53名に行ったアンケートだ。このコーナーではテレビの現状に絶望している意見から、テレビの未来に希望を託す意見まで、53通りのテレビ論が展開される。絶望論の筆頭は社会学者の加藤秀俊氏だ。彼は「文明史的にいって、まったく不毛な荒涼たる時空間をテレビはつくった。その不気味な砂漠を跳梁跋扈するのは『タレント』という名のえたいの知れない人間たち。かれらが空虚な音声

と身ぶり手ぶりで飛んだり跳ねたり、食べたり飲んだり、なにがなんやらわからない。要するにナンセンスの世界である。虚そのものである。もう、ここまで墮ちたら、墮ちようがないところまでテレビは墮ちた」と断じている。また田原総一朗氏は「かってはテレビは、それこそ自由なメディアであった。どのようなチャレンジでも可能だった。だが伝統が出来ると、失敗を怖がるようになり」「無難な番組を、無難な番組をという方向に傾斜」したと記し、テレビがかってのチャレンジ精神を取り戻さない限り、「無難でない」ネットと戦うことは出来まいと述べている。

アンケートの回答者にはこの他、メディア研究者で東大総長の浜田純一氏、作家で詩人の辻井喬氏、演出家の今野勉氏、大山勝美氏、映画監督の森達也氏、サンタリー副社長の鳥井信吾氏など多彩な顔ぶれが並び、それぞれの意見を聞かせてくれる。

第3部は、7氏にご執筆いただいた論考である。いずれも興味深い内容だが、そのなかで例えば「報道特集」のキャスター金平茂紀氏は「テレビ報道の脱中央集権化の試案」を提示し、テレビマンユニオン会長の重延浩氏は「テレビ崩壊論への反論」を展開する。また国際日本文化研究センターの井上章一教授は、いまのテレビマンのダメさ加減を具体的にとりあげて論じ、毎日放送顧問の北野栄三氏は、テレビの未来を考えるために、戦後の放送がどのような理念のもと出発したかを振りかえる必要があるとして、放送ジャーナリズムの歴史をひもどき、創業当時の初心はいまでも継続されているのかと、テレビ界の現状に警鐘を鳴らしている。いずれも刺激的で示唆と含蓄に富む論文だ。

第4部は、「高橋信三記念放送文化振興基金」についての説明である。書くのが遅れたが、この本は基金の創立20年の記念としてまとめたものだ。

高橋信三氏は毎日放送の二代目の社長だが、日本に民間放送を導入した立役者のひとりとしても知られている。太平洋戦争中、大本営発表を垂れ流し、国民をミスリードしたNHKの報道を批判し、「フリー・ラジオ」としての民間放送の立ち上げに奔走した。基金は高橋氏の逝去後設けられ、日本の放送文化に貢献する研究への助成を続けてきた。

ここではこれまでの助成リスト一覧や、助成の募集要項、さらには高橋氏の小伝なども盛り込み、応募にあたっての参考資料として活用していただくことをねらっている。

冒頭で記したように、このところテレビの評判はすこぶる悪い。その理由を端的に記せば、「どの番組も同じようなものばかり」につきるだろう。つまりどのチャンネルをまわしても金太郎飴状態で、かってのテレビがもっていたドキドキ感を喪失した。それに加えネットの普及で、情報をとりこむ手段としてのテレビの価値も相対的に低下した。

だがこのテレビは、かっては庶民に内在する文化的なエネルギーの共鳴する場として、熱く支持してきた。ネット時

代の到来でその図式は大きく変わったというものの、テレビがふたたび視聴者にとって魅力あるメディアとして復活するためには、何をどう改め、どうすることが必要か。ここにはそのヒントと処方箋がぎっしりと詰まっている。その意味で

この本は、テレビの制作者や研究者にとってはむろんのこと、メディアに興味をいただく人にとっても、必読の書と言えるだろう。 (辻 一郎)

## 書評掲載記事

## テレビの未来と可能性 一関西からの発言一

辻 一郎・音 好宏 監修

公益信託高橋信三記念放送文化振興基金20周年記念事業事務局 編

- ・サンデー毎日「岩見隆夫のサンデー時評 第757回」

2013年5月5日号

富む一冊である。私は本書の関係者ではないので私見を交えた著書紹介でご容赦願いたい。 制作者の一人は：「どこでも同じといわれないよう新しいことをして、うけると、すぐ真似される」…金太郎あめだ。だがプロだから真似されるような番組を作り続ける。他にも、自らの番組で何が出来るかだけを考えている。同じ発想で後を追う番組が出るのを期待する。真似ではない独創的な番組だ。 かつて東京各局は個性を競い

- ・民間放送 2013年4月23日(火)
- ・総合ジャーナリズム研究  
第225回 2013年夏号 図書室欄
- ・放送レポート 7月号「話題の本から」須藤春夫
- ・GALAC 9月号掲載予定【8月6日発売】



## テレビの未来と可能性 —関西からの発言—

究者は言う。参加者の一人はこれに答えて、給料半額にしても制作費を増やすべきだ。更に、意欲ある人材は優れた番組を作する局に集まるとの発言も。これに経営も真摯に応え、実践していくれば、未来はある。

けが来る」、この声を、東京は特番中の時間がないとボツに。命こそ最優先すべき情報ではないか。

関西の放送はどうあるべきか、一人の制作者が篠山紀信の言葉を紹介した。カメラの性能が格段向上したとき彼は言った「カメラマンに残つたのは、哲学だけだ」。哲学、難しいことではない。私は思う、番組制作の原則を貫く心だ。大阪は既に優れた全国番組の宝庫だ。『情熱大陸』『新婚さんいらっしゃい』『ミヤネ屋』関テレのドラマその他。大阪には放送資源の中の時間がないとボツに。命こそになる文化がはまだまあると研

する。地域に新鮮な情報を伝えるのが使命の地方への配慮はない。更にこんな例もある。阪神大震災取材中、「父ちゃんが埋まってるテレビで放送して、そうすれば助

あつた。個性を失つた横並び総合編成より専門局へ、有料放送も視聴野になど、いかに現状を打開し明日を築くかを、熱を込めて語る。経済の東京一極集中でキイ局は発言力を強め、地方は東京が望むコンテンツを作らざるを得ない。全国各地の生中継番組。やたらと京都中継が多い。京都ネタは東京では見慮率のドレネーだから発生

本書は『関西からの発言』とあるが、これが広く全国の発言に広がる端緒となつてほしい。

(編集顧問 中村登紀夫)

発行 大阪公立大学共同出版会

お問合せ

☎ 072 (251) 6533

定価 2400円+税

かつたが、別にABCの友人から聞いた話を紹介した。キイがNETになつて夕方ニュースの配分金が格段に増えたという。TBSは『ニュースコード』の配分金を大局に薄く、経済規模の小さな県域局には厚くした。小局が力ををつけ、ネットワークを不動のものに；当時のキイ局は必ずしもがあつた。今、キイ局

これに経営も真摯に応え、実践していくれば、未来はある。

昨年私は、本書監修の辻一郎、音好弘両氏に腸捻轉についてのインタビューをうけた。私の話は報道素材の扱い以外に何もな

民放くらぶ 第110号 2013年6月号書籍紹介欄より

# 環境容量からみた日本の未来可能性 低炭素・低リスク社会への47都道府県3D-GIS MAP

• 每日新聞

2013年3月6日(水) 奈良版

## 奈良ユニバーサロン

## ログ・イン

いきている長屋

谷 直樹・竹原義二 編著

・読売新聞 2013年6月30日(日) 書評欄

## いきている長屋

土の路地、裸足で遊ぶ子、見守る母親、植木に水を撒く人、軒先に並ぶ自転車、瓦屋根、格子戸、連子窓、簾……。ページをめくると、こんな写真が次々に。といつて懐かしの再生こそ街づくりの核

街並み写真集ではない。大阪梅田北で今も生きる豊崎長屋の姿である。大阪も他の大都市同様に高層ビル建設ラッシュが続く。ではなぜ、この長屋が今も生きているのか。

実は大正期に建設され約九十年も経て、老朽化した豊崎長屋も二〇〇五年にビルへ変わる計画があった。なにしろ約四百四十坪の土地だ。だが、調査に訪れた谷直樹による家主への説得と、家主の吉田家の理解により、長屋は保全ではなく、耐震設計を含め再生への途を進み始める。

本書はその後、長屋をどう再生したか、七年間に亘る活動の全記録だ。谷直樹と共に大阪市大教授であった建築

谷直樹、竹原義二編著

大阪公立大学共同  
出版会 2500円

評・松山巖(評論家・作家)

土の路地、裸足で遊ぶ子、見守る母親、植木に水を撒く人、軒先に並ぶ自転車、瓦屋根、格子戸、連子窓、簾……。ページをめくると、こんな写真が次々に。といつて懐かしの再生こそ街づくりの核

近代の大阪での長屋の成立と衰退などの歴史解説も、大阪に現在残る長屋の分布と生活実態の調査もある。その上で、高齢者にはコンクリートより木造家屋が適するという分析を行い、長屋再生こそ今後の街づくりの核となるという提言をしている。すべて七年間の実践と調査に基づくだけに強い説得力がある。

それだけではない。

ただに、なおき=大阪市立大名誉教授、同市立住まいのミュージアム館長△たけはら・よしげ=建築家。

家竹原義一「彼ら二人の指導の許、調査や設計や現場でも働いた学生たち。職人たちの仕事ぶり。家主の長年に亘る借家人への配慮や住人たちの暮らし方の調査。その調査を踏まえた丹念な設計図案。それだけにどのようなページからも、誰もが共に長屋再生を目指した熱意が伝わってくる。

読売新聞 平成25年6月30日(日) 朝刊より

## 新刊書の紹介

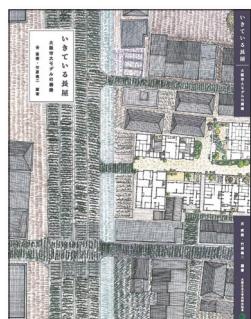
## いきている長屋

## 大阪市大モデルの構築

谷 直樹・竹原 義二 編著

豊崎長屋の再生をテーマに、歴史、暮らし、デザイン、構造、活用までを視野に入れ、それぞれの専門家が論じた一書。

ISBN978-4-907209-03-2 C0052

B5判、並製本、228頁  
定価：本体2,500円+税

## いのちを守る都市づくり

## 【アクション編】

## みんなで備える広域複合災害

大阪市立大学都市防災研究グループ 編著  
広域複合災害への備えとして、私たちが普段から知り・考え・実行しておきたい「家族でよむ防災読本」【課題編】の続編。

ISBN978-4-901409-98-8 C1036

B5判、並製本、174頁  
定価：本体2,000円+税

## 乳幼児をもつ母親のウェルビーイング

川村 千恵子 著

乳幼児をもつ母親のウェルビーイング(心の健康と幸せ)向上をテーマにした調査研究のまとめ。育児関係者の必読書。

ISBN978-4-901409-97-1 C3036

A5判、上製本、156頁  
定価：本体2,400円+税

## un abécédaire francophile

MF Pungier・浅井 美智子・猪俣 紀子 編



フランス文化に親しむための紹介書。大阪府立大学の短期語学研修プログラムで学生が撮影した写真と共に日仏両語でフランス文化・言葉を紹介。

ISBN978-4-907209-02-5 C0085

A5判、並製本、60頁  
定価：本体900円+税

## 新刊書の紹介



OMUPブックレット No.37  
「共生ケア」シリーズ3  
多胎児支援の現在  
ー祖父母力と多胎児サークルの力

中井 孝章 編  
鹿島京子・三好彩加 著  
ISBN978-4-901409-95-7 C1336  
定価：本体800円+税



OMUPブックレット No.40  
保育リスクマネジメント概論

関川 芳孝 著

ISBN978-4-907209-01-8 C1336  
定価：本体800円+税



OMUPブックレット No.38  
「みやざき自然塾」シリーズ2  
マンショからオラショまで (その1)  
～初の国際人・伊東マンショ～

竹井 成美 著  
ISBN978-4-901409-96-4 C1373  
定価：本体500円+税



OMUPブックレット No.41  
顧客分析論  
メタファー分析によって顧客の本当の心を知る

近 勝彦 谷本 和也  
金野 和弘 西堀 俊明 編著  
ISBN978-4-907209-04-9 C1333  
定価：本体800円+税



OMUPブックレット No.39  
「地域活性化」シリーズ3  
地域再生の手段としての地域通貨  
ー「エコマネー」の可能性と限界に注目してー

山崎 茂 著  
ISBN978-4-901409-99-5 C1363  
定価：本体800円+税



OMUPブックレット No.42  
フランス公園法の系譜  
Historique du Droit du Parc : de la France au Japon

久末 弥生 著  
ISBN978-4-907209-05-6 C1332  
定価：本体800円+税

### 大阪公立大学共同出版会事務局より

大阪公立大学共同出版会は、大阪市立大学および大阪府立大学における教職員と、本出版会の趣旨に賛同する者の自主的な参加を得て、研究・教育成果の発表を助成し、また民間出版社において採算上刊行を引き受けないような優良学術図書の刊行頒布の事業を行い、学術の振興および文化の発展に寄与することを目的とし、

(1) 会員の教科書および学術研究報告の刊行頒布  
(2) 会員の学術図書の刊行頒布  
(3) 会員のデータベース、ソフト等電子出版物の刊行頒布  
(4) その他前条の目的を達成するために必要な事業  
などを行っているNPO法人です。参加を希望される方は、下記事務局へお問い合わせください。

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学中もずキャンパス内

NPO法人大阪公立大学共同出版会（OMUP）事務局

電話：072-251-6533 ファクシミリ：072-254-9539

e-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp

U R L：http://www.omup.jp/

入会金：一口一万円

振込先：三菱東京UFJ銀行 中もず支店 普通 3976510

### 新 顔 紹 介

OMUP編集 川上 直子

昨年末より編集を担当させて頂いております。学術書に携わるのは初めてなのですが、著者の研究意義や未知の知識に触れることのできる喜びを（ひそかに）頂いております。先日、理事の先生に「いい本をつくってくださいね」とお声を掛けて頂きました。初心を忘れず、多くの方々が興味を持って頂けるような本づくりに向け、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



### 編 集 後 記

暑中お見舞い申し上げます。先日の総会において足立泰二常務理事が新しく理事長に選出承認されました。新しくご参加いただく常務理事の先生方と心機一転頑張りたいと存じます。まだまだ暑い日が続くと思いますが、皆様お身体ご自愛くださいますようお祈り申し上げます。 (NK)